

ID No.	3006
研究課題名	腸管における免疫環境の構築と生体制御・疾患
研究代表者	國澤 純（医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）
研究組織 受入教員 研究分担者	清野 宏 （東京大学医科学研究所・教授） 長竹 貴広 （医薬基盤・健康・栄養研究所・研究員） 鈴木 英彦 （医薬基盤・健康・栄養研究所・研究員） 細見 晃司 （医薬基盤・健康・栄養研究所・研究員） 柴田 納央子 （東京大学医科学研究所・特任研究員） 神岡 真理子 （東京大学医科学研究所・大学院生）
研究報告 腸内細菌については、腸管リンパ組織内部に共生するアルカリゲネスの菌体成分であるLPSに着目した研究から、アルカリゲネスLPSは過剰な炎症を誘導せず適度な免疫の活性化が可能なこと、そのためアジュバントとして使用することで、副作用なく免疫誘導できることを見いだした。 また食事成分については、油に着目した研究から食物アレルギーを抑制する油として同定した亜麻仁油を起点にし、腸管において産生されるEPA代謝物が皮膚炎においても有効なこと、その作用が好中球のGPR40を介した遊走抑制であることを示した。 これらは腸内細菌や食事を介した免疫制御と生体防御・炎症・アレルギーに関する分子、細胞、個体の各レベルでメカニズムを提唱した独創的な研究成果となる。	